

## IV 特別寄稿

# 私の研究遍歴

(社会工学系助教授) 日 端 康 雄

昭和61年度から環境科学研究科を担当させて頂くことになりました。筑波大学へは昭和57年11月から参りまして、これまでは、社会工学類、社会工学研究科で講義を担当してきました。

私の専門は都市計画ですが、その中でも土地利用計画、地区計画を中心として、市街地の形成変容過程と広い意味での計画管理システムの関係について興味をもって来ました。

具体的な研究内容という点では、結局、都市をその生活環境面、土地利用という面から捉え、それに現実にぶつかり、真正面から取り組んでその中から理論を導き出し、完成させるという姿勢で研究室の学生諸君と様々な研究を行ってきましたが、大まかに分類すると次のようなものです。

・住宅地計画：計画単位と施設構成基準、コミュニティ計画論、既成市街地の住環境整備問題など住宅地の計画的形成に関する理論と実際に興味をもってきました。

・都市再開発論：都市再開発という行為をひろく市街地の形成・更新過程の中で捉えることを試みてきた。また、都市再開発に関する諸々の専門知識・技術の統合をはかり、ひとつの都市計画技術の体系として確立することを研究の目標としてやってきた研究もあります。さらに、都市再開発基本計画（都市再開発マスタープラン）の理論と実際の検証に興味をもってやってきました。

・都市計画制度論：土地問題や土地政策をふまえた都市計画制度のあり方について、これまで諸外国の比較制度論を行政法学者との共同研究などを通じてやってきた。都市基本計画、部門計画、土地計画など主として物的都市計画体系について勉強してきました。

・土地利用計画及び制御：物的都市計画の目的は、つきつめると、計画的土地利用の実現という認識から、都市計画の技術であるプランと土地利用のコントロールの関係をより合理的関係に置くための様々の研究課題に興味をもっています。特に、地区計画制度の計画策定と適用過程について、計画技術的な面、社会的側面について興味があります。

講義は「住環境計画論」を担当し、修論は上述の研究内容に関連するもののほか、場合によっては学生の自主的テーマにも相談にのり、指導します。